

小樽市長の迫俊哉です。

新しい年を迎えてから早いもので一月あまりが過ぎました。皆さん如何お過ごしでしょうか。本年が喜びや希望に満ちた一年となりますようお祈りしております。



私が市長に就任してから比較的雪の少ない冬が続きましたが、昨年12月から降雪が続き、市内は深い雪に覆われております。今年度は除排雪費として約16億円を予算に計上しましたが、業務量の増加のため2月9日に3億円を増額補正しました。除排雪は市民の皆さんにとって、市政の中で最も関心が高く、今後も順次、排雪を進め、市民の皆さんの安全で安心な生活を支えていかなければならないと考えております。また、関係する業者の皆さんには、連日、早朝から除排雪に対応いただいており感謝申し上げます。

同時に年が明けてから新型コロナウィルスの新規感 染者数が急激に増加に転じました。私たちが新型コロナウィルスと向き合うようになってから丸2年が過ぎ ようとしております。この間、本市の感染防止対策に ご理解とご協力をいただいており感謝申し上げます。

「第6波」と言われておりますが、オミクロン株の 感染力の強さを実感しております。現時点では、無症 状や軽症が多いこと、保育園や学校で感染が拡大していることがオミクロン株の特徴と言えます。

無症状や軽症が多いことから自宅療養が増加しておりますが、病床の確保など医療体制を維持しつつ、自宅で療養される方々の健康観察など保健所体制の維持に全力を傾けてまいります。

一方、3回目のワクチン接種につきましては、昨年12月から医療従事者を対象にスタートしており、皆さんには、当初2回目の接種から8カ月後とされていた3回目の接種を前倒しし、2月上旬から順次、接種券を送付しております。併せて集団接種を開始することにいたしました。

## 政治姿勢としての「備え」

「備え」を政治姿勢の一つとして掲げてまいりました。 「備えあれば憂いなし」で、市長である私が予期し、 備えることで、市民の皆さんの憂いを軽減できると考 えております。



平成30 (2019) 年9月、市長就任直後、胆振東部 地震が発生し、市内では2~3日間にわたり停電と なったブラックアウトを経験しました。そして、市民 の皆さんに適時適確に情報をお伝えすることの大切さ も実感しました。

この時、「エフエム小樽」(76.3MZ) は、避難所の開設状況や給水が行われている場所、スマートフォンの充電場所など小樽市内のきめ細かな情報を発信し、コミュニティ放送の威力を発揮していただきました。一方で市内は山坂が多く、エフエム小樽の電波を受信できない「難聴地域」があります。

私はこの問題の解決が重要だと考え、時間を要しましたが、3つの中継局を新たに開設し、昨年12月からは、オタモイ地区や張碓、桂岡、銭函地区などの難聴地域にエフエム小樽の電波をお届けすることができるようになりました。

私も毎月第一、第三月曜日の午後2時から番組「明日に向かってスクラムトライ!」に若手職員とともに 出演し、市政情報をお伝えしておりますので、ぜひお 聴きいただきたいと思います。

## 人口減少と子育て支援

	人口	減少数
平成22年	131,928人	▲10,233人
平成27年	121,924人	▲10,004人
令和2年	111,299人	▲10,625人

上の表は過去3回の国勢調査の結果です。令和2年までの5年間はこれまでの調査で最も減少数が多い結果となり重く受け止めております。そして、次の表は令和3年の人口の動態を示したものです。

出生	死 亡	自然減
417人	1,975人	▲1,558人①
転入	転 出	社会減
2,920人	3,385人	▲465人②

本市では15年ほど前から毎年約2,000人の人口が減少しており、昨年は2,023人(①+②)の減少となりました。特に出生数の減少は著しく、今年の成人数は906人ですので、ここ20年間で出生数が半減したことがわかります。人口対策としての少子化対策は本市にとって重要な課題だと認識しており、昨年、新たに「こども未来部」を創設いたしました。一昨年は「子育て世代包括支援センター」を開設し、妊娠、出産、育児をサポートする体制を強化しております。「子どもの生活実態調査」の結果などを踏まえて、段階的ではありますが、こども医療費の助成拡大(無償化)も進めており、子育て世代の皆さんにここ小樽で安心して出産、育児ができる環境整備を今後とも進めてまい

ります。

人口対策のもう一つの柱が移住政策です。小樽のまちに魅力を感じ、私の周りにも、ガラス工房や飲食店の経営者として移住された方が多くおります。移住を検討されている方に対して小樽の魅力を伝え、創業支援などをさらに充実し、人口減少に歯止めをかけたいと考えています。



## 未来に「つなぐ」

小樽は大正11(1922) 年に市制が施行されてから、 本年で100年を迎えます。商工港湾都市として発展し てきた本市は、この頃形成された街並みが独特の景観 をなし、現在の観光都市小樽を支えているとも言えま す。

2019年にはミツウマが、昨年は北海製缶や都通り商店街が100年を迎えており、改めて小樽は企業や商業者の皆さんとともに歩み、支えられてきたと感じています。

今、観光都市小樽の顔となる駅前広場の整備を含めたJR小樽駅周辺の開発や、大型クルーズ客船に対応した小樽港第3号ふ頭とその周辺の開発、さらには、2030年に予定されている北海道新幹線の札幌延伸を見据えたまちづくり、そして歴史を活かしたまちづくりを進めており、先人の築いたこのまちの礎をさらに強固なものとして、次の世代に引き継がなければならないと考えています。また、その道筋をつけることが私の責任と考えております。

## 結びに

ご支援をいただいている皆さんに市政報告のできる場を検討してまいりましたが、現下の感染拡大の状況を考慮し、やむを得ず断念することといたしました。何とぞご理解をいただきますようお願い申し上げます。 改めて、皆さんにお目にかかれる日を楽しみにしています。